

令和6年度病虫害発生予報第6号（9月）

令和6年9月2日
愛知県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	8月下旬の早期栽培での発生量は平年並 中生の主要品種は穂いもちに強い 9月の降水量は多い	± － ＋
	紋枯病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は多い	－ ＋
	トビイロウンカ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
	コブノメイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	＋
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 イネカメムシ及びミナミアオカメムシの発生量はやや多い	± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	ハスモンヨトウ	多い	県全域	8月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	オオタバコガ	多い	県全域	8月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋ ＋
	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔イネ・コブノメイガ〕

中晩生品種で収穫まで期間があり、葉の食害が目立つ場合は、ディアナSCなどで防除しましょう。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

8月下旬の巡回調査において、斑点米カメムシ類のうちイネカメムシ及びミナミアオカメムシの発生量がやや多い状況です。周囲のほ場で同種の発生が多い場合は、ほ場の発生状況をしっかりと確認しましょう。本日発表の「斑点米カメムシ類情報第3号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第8号」を参照してください。

〔ダイズ・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第5号」を参照してください。

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

本日発表の「吸実性カメムシ類情報第1号」を参照してください。

・留意事項

弥富市及び大口町の予察灯ではニカメイガの誘殺数が多い状況が続いています。特に、近年被害の多い地域における遅い作型の水稻では被害に注意しましょう。防除対策については7月10日発表の「ニカメイガ情報第1号」を参考にしてください。

ダイズほ場における8月下旬の巡回調査では、シロイチモジヨトウの発生量が多い状況でした。本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第2号」を参考に、ほ場での発生が見られたら速やかに防除しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	黒点病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の降水量は多い	＋ ＋
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± ＋
	チャノキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	8月下旬のイヌマキにおける 発生量は平年並 8月下旬の被害果率はやや少ない 黄色粘着トラップにおける誘 殺数は平年並	± － ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は多い	－ ＋
	モモハモグリ ガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない 9月の降水量は多い	－ ＋
カキ	炭疽病	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の降水量は多い	± ＋
	うどんこ病	やや少ない	県全域	8月下旬の発生量はやや少ない	－
果樹共通	カメムシ類	やや多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや 多い フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並	＋ ±

・防除対策

〔ウンシュウミカン・黒点病〕

ジマンダイセン水和剤、ナティーボフロアブルなどで、収穫期のほ場では収穫前日数に注意して防除しましょう。

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

ダニエモンフロアブル、ダニコングフロアブルなどで、収穫期のほ場では収穫前日数に注意して防除しましょう。

〔カキ・炭疽病〕

オーソサイド水和剤 80 やナリアWDGなどで、収穫期のほ場では収穫前日数に注意して防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第7号」を参照してください。

・留意事項

モモのせん孔細菌病の発生が多いほ場が確認されています。越冬伝染源量を減らすため、収穫後にICボルドー412などで防除を実施しましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数は、豊田市（モモほ場）および

西尾市（ナシほ場）で多い状況です。次世代幼虫によるナシ果実への被害を防ぐため、収穫前日数に注意し、薬剤防除をしましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は成虫発生ピーク時です。表を参考に適期防除を実施しましょう。

表 アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖		稲武
第6世代	8/28	8/25	8/23	8/24	8/29	8/27	8/23	8/20	8/29	8/21	第4世代	8/14
第7世代	9/16	9/13	9/11	9/12	9/18	9/16	9/11	9/8	9/18	9/8	第5世代	9/5
第8世代	10/13	10/8	10/3	10/4	10/15	10/12	10/4	9/29	10/16	9/30	第6世代	10/5

各地のアメダス平均気温から予測。9月1日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	前年11月下旬の発生量はやや少ない 8月下旬にまとまった降雨があった 9月の降水量は多い	－ ＋ ＋
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	8月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋
	シロイチモジ ヨトウ	やや多い	県全域	キャベツでの8月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月の気温は高い	＋ ± ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

〔キャベツ・黒腐病〕

カスミンボルドーやコサイドボルドーなどで防除しましょう。銅水和剤を用いる場合、炭酸カルシウム水和剤（クレフノンなど）を加用し、薬害を防止しましょう。

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

キャベツ及びハクサイは、育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で防除しましょう。

ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。

定植後はトルネードエースDFやアニキ乳剤などで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ〕

中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期に防除しましょう。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは、分散前の防除が効果的です。

ハスモンヨトウは、本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第8号」を参照してください。

シロイチモジヨトウは、本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第2号」を参照してください。

オオタバコガは、本日発表の「オオタバコガ情報第5号」を参照してください。

・留意事項

アブラナ科野菜では、長雨や強風を伴う降雨後には黒腐病や軟腐病などの細菌による病害や、多湿によってまん延しやすいべと病などの発生量が多くなります。農薬は、植物体に付いた泥を洗い流すように地際部まで丁寧に散布しましょう。害虫による食害痕は細菌による病害の発生を助長するので、害虫の発生がある場合は、殺虫剤も散布しましょう。また、今後も強風を伴う雨等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、排水の悪いほ場では排水対策をしましょう。

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。8月16日発表の「コナジラミ類情報第1号」も参照してください。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、**炭疽病**は7月下旬の巡回調査での発生量は平年並でしたが、今後も高温が続くと予想され、発生が助長されるおそれがあるため注意が必要です。育苗ほで発生がある場合は、発病株はもちろん、発病株の周辺にある株は症状が無くても処分し、絶対に本ほへ定植しないようにしましょう。

イチゴの育苗ほで**ハダニ類**の発生が目立つほ場があります。本ほにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

トマトキバガの県内農作物への被害は確認されていませんが、複数地点のフェロモントラップで継続的に誘殺されています。ほ場での発生が疑われる場合は病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。コナジラミ類防除と併せて、適用のある薬剤を施用するとともに、侵入防止に努めましょう。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し寄生した成幼虫を全て死滅させたいので、適切に処分しましょう。生態や防除対策などの詳細は、7月3日発表の「トマトキバガ情報第2号」を参考にしてください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク (露地)	白さび病	平年並	平坦部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は多い	± － ＋
	白さび病	平年並	山間部	8月下旬の発生量は平年並 9月の気温は高い 9月の降水量は多い	± － ＋
	アブラムシ類	少ない	県全域	8月下旬の発生量は少ない	－
	ハダニ類	やや多い	県全域	8月下旬の発生量はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋
	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける 誘殺数はやや多い 9月の気温は高い	＋ ＋

・防除対策

〔キク（露地）・ハダニ類〕

コロマイト水和剤やダニコングフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

〔キク（露地）・ハスモンヨトウ、オオタバコガ〕

ハスモンヨトウは、本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第8号」を参照してください。

オオタバコガは、本日発表の「オオタバコガ情報第5号」を参照してください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月29日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は、高い確率70％です。

降水量は、多い確率50％です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10％ 平年並：20％ 高い：70％

〔降 水 量〕 少ない：20％ 平年並：30％ 多い：50％

〔日照時間〕 少ない：30％ 平年並：40％ 多い：30％